

The Philosophy of Nagahama Ceremony

## 人生最後の「ありがとう」のために。

地域に愛される会社でありたい。  
これは今も昔も変わらない、長浜セレモニーの根幹となる想いです。

私たちが目指すのは、  
お葬式を執り行なう“業者”としてのお付き合いではありません。  
お葬式だけでなく、地域の催しでも皆様から必要とされるように。  
長浜セレモニーに関わるすべての方から  
「おかげさまで……ありがとう」と言っていただけるように。

ご家族・地域の皆様の「気持ち」に寄り添う、  
ライフパートナーでありたいと思っています。

100人いれば100通りの人生があるからこそ、  
どれもが「世界に一つだけのご葬儀」に。

お集まりいただいたすべての方が、  
故人様の思い出を分かち合い、生きた証を心に刻めるよう、  
一人ひとりの想いを形にしたお葬式を実現いたします。

手間暇を惜しまず、人生最後の「ありがとう」をお手伝いを。  
地域でのご縁を大切に、  
社員一同「こころ」を込めてご奉仕させていただきます。

心のこもったあたたかいお葬式を届ける



長浜セレモニー株式会社  
サポート部 課長

最後のお別れを、全力で。

長浜セレモニー 家族葬の♡ウィズユー宮前








### 心のこもったあたたかいお葬式を届ける

私たちは常にお客様に満足いただける企業として感謝の「こころ」でご奉仕します  
私たちは常に「こころ」から愛される企業として地域社会に貢献します  
私たちは常に尊敬と愛情と信頼で結ばれ「こころ」をひとつにして協力の精神で社運の発展に努めます

お客様に安心と満足をご提供し、地域に愛される会社でありたい

- 地域の事情に精通した 地域密着の葬儀社
- お葬式の費用を1円単位でお見積り 明瞭価格で安心のプラン
- ご縁を大切に 心をこめたご提案
- 地域密着の葬儀社だからこそできる 充実のアフターサポート
- 葬儀社格付 (UECIA) 最高評価5つ星を獲得
- たくさんのありがとうをいただいた お客様の声

■ 式場一覧

<p>家族葬の♡ウィズユー高月</p>  <p>滋賀県長浜市高月町 柏原396-1 パワーズさん斜め向かい</p>	<p>長浜市</p> 	<p>長浜式場</p>  <p>滋賀県長浜市加納町 341-5 長浜1.Cより車で3分</p>
<p>家族葬の♡ウィズユー宮前</p>  <p>滋賀県長浜市宮前町6-4 旧国道8号線沿い</p>	<p>米原市</p>	<p>家族葬の♡ウィズユー近江</p>  <p>滋賀県米原市願戸632-4 願戸南交差点角</p>

葬儀のことなら何でもお気軽にお問い合わせください

☎ 0120-09-8395 通話無料 365日24時間受付

会社名 長浜セレモニー株式会社  
本社所在地 〒526-0804 滋賀県長浜市加納町341番地5  
TEL 0749-64-3415 FAX 0749-64-3416  
代表者 代表取締役 松村隆雄  
設立 2001年7月

ホームページはこちら ▶▶▶▶  
<https://nagahama-ceremony.com/>



## 最後のお別れを、全力で。

ご葬儀は、故人様と過ごせる最後の時間。故人様のお顔や手に触れること、髪をなでることも、そこにお体があるからこそできること。だから「最後のお別れの時間」に悔いなく真っ直ぐ向き合ってほしい。

ご葬儀とは故人様を弔うために行なうもの。それと同時に残されたご家族のためでもあるのです。照れくさく言えなかったこと、心からのありがとうの思い。伝えたいこと全部！言葉にして声に出してほしい！

そんな想いを胸に、現在はサポート部の課長、終活カウンセラーとして活動。ご葬儀の中ではご家族やご住職様とお打合せ、お式全体の進行管理をしています。

私が葬儀業界へ転職するきっかけとなったのは、祖母のお葬式でした。急なことで最後に会うことも叶わず、泣くことしかできなかった私にスタッフさんが「大丈夫。おばあちゃんはどうしんどくないよ。いつものように話しかけてあげてね」と、優しく声をかけて下さって……。その言葉に心が救われたのを覚えています。

そこから月日が過ぎ、子育ても一段落して転職を考えたとき、ふと祖母のお葬式でのことを思い出しました。「私も、やってみたい!!」その気持ちが強く湧いてきたのです。

初めて経験する葬儀の仕事は、当然ながら、うまくいくことばかりではなく……。

入社して間もない頃。大切な方を亡くし涙が止まらないお客様を目の当たりにしたとき、「ああ…祖母を亡くしたときの私のようにだ」と思いました。

自分も同じ立場にいたはずなのに、どう声をかけたらいいのか、どんな言葉を選ぶべきなのか、わからなかったんです。悔しかった。ただ、それだけでした。

そこから私は、語彙力や葬儀の知識、対応の引き出しを増やすために猛勉強を始めたんです。終活やカウンセリングについての本、先輩方の所作、お式での動き方、お客様にどのよう声をかけたのか、何を話したのか……すべてメモをとりました。

特に、ご住職様のお話の中で「人は亡くなっても耳は最後まで聞こえる、しっかりとありがとうございますと伝えなさい」という考え方を聞き、感銘を受けました。

そこからご葬儀でお別れの案内をする際、念入りにお伝えするようにしたんです。この場が、お顔に触れ声をかけられる最後の時間であることや、お棺のお蓋を閉じる際、感謝と労いの声で棺の中をいっぱいにしてほしいこと……。

本当に最後の時間。

どうか、泣くことを我慢しないで。言葉をかけることを恥ずかしいと思わないでほしい。

お客様に対して私たちがができるのは、お別れに集中できる時間やきっかけをつくること。祖母を亡くしたとき、葬儀社の方が作ってくださった最後の時間に救われたから。大切な人の死を受け入れ、区切りをつけられたから。私も、お客様にそうして差し上げたいんです。

これからも限界を決めず、「もっとできることがある」という気持ちで、「最後」と向き合うお客様に寄り添い続けます。



The Philosophy of Nagahama Ceremony

人生最後の「ありがとう」のために。